

# 丸森町食育推進行動計画



平成23年10月

丸 森 町

## 目 次

第1章	丸森町食育推進行動計画の策定にあたって	
	1. 計画の趣旨	1
	2. 位置づけと計画の期間	2
	3. 計画策定の体制	4
第2章	丸森町食育推進行動計画策定の背景と基本的課題	
	1. 丸森町の概要	5
	2. 計画策定の背景と基本的課題	5
第3章	丸森町の食育の理念（めざす姿）と基本目標	
	1. 丸森町食育推進行動計画の基本理念	10
	2. 基本目標	11
第4章	基本目標に応じた食育推進活動の具体的な取り組み	
	1. 家庭で、地域で、町で皆に「んめえもの」を伝えるための取り組み	12
	2. 安全・安心な食材を選ぶ「五感」を身につくための取り組み	12
	3. 「食べる」ことを理解し、感謝する心を育てるための取り組み	12
	4. 消費者と生産者が互いに理解し、支え合うための取り組み	13
	5. 多様な機関が連携し、食育をすすめるための取り組み	13
	丸森町食育推進行動計画の図表	14
参考資料		
	1. 丸森町食育推進行動計画検討委員会設置要綱	15
	2. 丸森町食育推進行動計画検討委員名簿	16
	3. 丸森町食育推進行動計画検討委員会の経過	17
	4. 丸森の食育に関するSWOT分析「強み・弱み」表	19
	5. 丸森町の職にかかると「農学体験」「交流体験」等の状況	24
	6. 丸森町内保育所・児童館の食に関するデータ	25



# ごあいさつ

丸森町長 保科 郷 雄

「食」はすべての人にとって欠かすことのできないものです。

「食育基本法」前文には「食育を、生きる上での基本であって、知育、徳育及び体育の基礎となるべきものと位置付けるとともに、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てる食育を推進することが求められている。」とあります。

現代は、さまざまな食べ物が巷にあふれ、好きなものを、いつでも手軽に食べられるようになり、昔は「旬」の時期にしか食べられなかった果物、野菜なども年間を通じて食卓に上るようになりました。

レストランなど家の外で食べる「外食」と家庭で調理したものを食べる「内食（うちしょく・ないしょく）」のほかに、最近では調理済みの総菜などを買ってきて家で食べる「中食（なかしょく）」という言葉も耳にするようになりました。

便利になった一方で、地域や家庭で伝承されてきた「食文化」や食べ物の「旬」が忘れられようとしているようにも思われます。

このように、「食」を取り囲む状況が大きく変わりつつある中で、「食育」の重要性が再認識されるようになり、行政と地域の皆さんとの協働による「食育」の推進が求められています。

丸森町では、「食」あるいは「食育」に直接関わる様々な団体の方々のご意見をいただきながら「食育推進行動計画」を策定するため、検討委員会を設置し、検討を進めてまいりました。

この計画を基に、行政、地域、団体、個人が連携して丸森町ならではの「食育」の推進を図れるよう、皆さまのご協力をお願いいたします。

最後になりましたが、本計画の策定にあたりご尽力いただきました「計画策定検討委員会」委員の方々をはじめ、ご意見を賜りました多くの皆様方に心より感謝申し上げます。

平成23年10月

「食」とは「生きるため」に「食べる」

その、生きるために食べる「食」に最近、変化が生じています。

個人のライフスタイルや価値観が尊重されるようになるにつれて、食生活はどんどん簡便化され、家族そろって食卓を囲む機会は減り、孤食や個食、朝食の欠食等々不規則な食事が増え、食生活に問題が生じているといわれています。

近年、日本は世界的な長寿国となりました。

しかし、肥満をはじめとして生活習慣病の増加等、健康上の問題も生じており、大人だけでなく、子どもの中にも肥満の増加や痩身志向などが見られます。

生活習慣病を予防し生涯健康で過ごすためには、子どもの頃から正しい食習慣を身につけておくことが重要と考えます。

今回の食育推進行動計画では、基本目標に「5つの柱」を掲げました。

この基本目標に向かって、関係団体の連携協力のもとで丸森町の食育活動がさらに伸展することを期待します。

計画策定の期間中に東日本大震災の影響による中断もあり、限られた期間の中で、検討委員の皆さんの協力なくしてはこの計画書はできなかったことと申します。

最後に、検討委員会に関わっていただいた検討委員、スタッフの皆さんに感謝するとともに、関係者のみなさまに厚く御礼申し上げます。

丸森町食育推進行動計画検討委員会  
委員長 齋藤重信

## 第1章 丸森町食育推進行動計画策定にあたって

### 1. 計画策定の趣旨

生涯にわたり健やかな身体を育むため「食」は欠かせないものです。

近年、社会情勢の変化、核家族化、ライフスタイルの多様化等「食」をめぐる状況は大きく変化してきています。

それに加え「食」の安全上の問題や食に関する情報の氾濫、さらには、郷土料理や行事食の料理など日本に伝わる食文化が薄れてきているなど、食生活にも問題が生じています。

また、食育基本法では、様々な経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることが求められています。

丸森町では、平成15年度に、健康日本21地域計画「健康現役丸森大作戦（愛称 げんまる21）」を策定し、子供からお年寄りまで自分に合った健康実践をする人を増やすための活動を続けてきました。

その活動の一環として、「規則正しい食生活の子ども」を増やすため、保育所、児童館では農業体験を通して「バランスのとれた朝食を食べる活動」に取り組んでいます。

地域では、伝統食・食文化や我が家の料理を受け継ぐための取り組みを行っています。

さらに、丸森町では丸森産農産物認証制度を制定し、安全で安心な農産物の生産をすすめております。

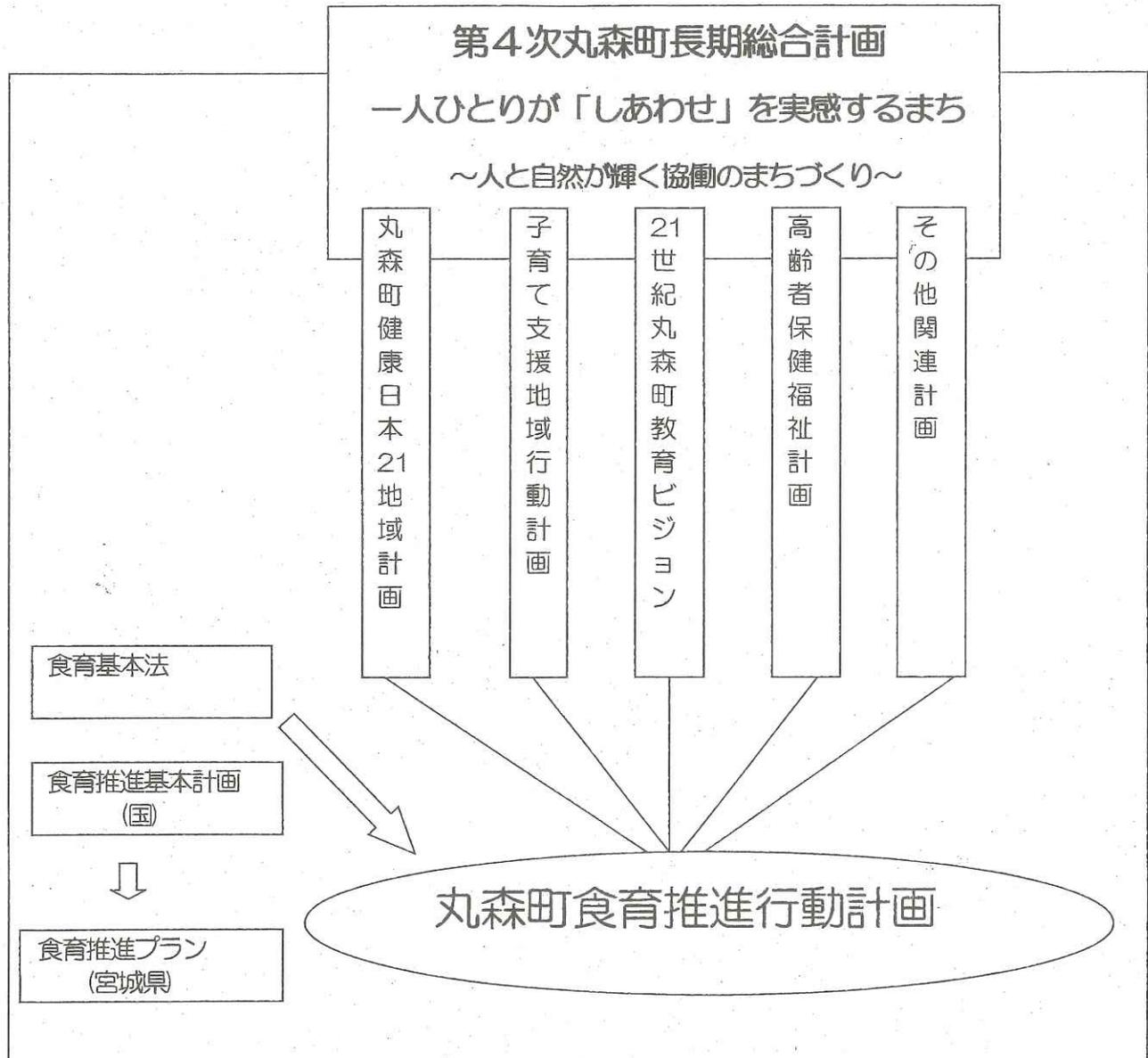
丸森町では、これまでも様々な機会を通じて食育を進めてきたところです。

さらに、食に関わる行政機関・団体・学校・地域・生産者・消費者等の連携を強化し、総合的に食育を推進していくための指針となる「丸森町食育推進行動計画」を策定します。

## 2. 計画の位置づけと計画の期間

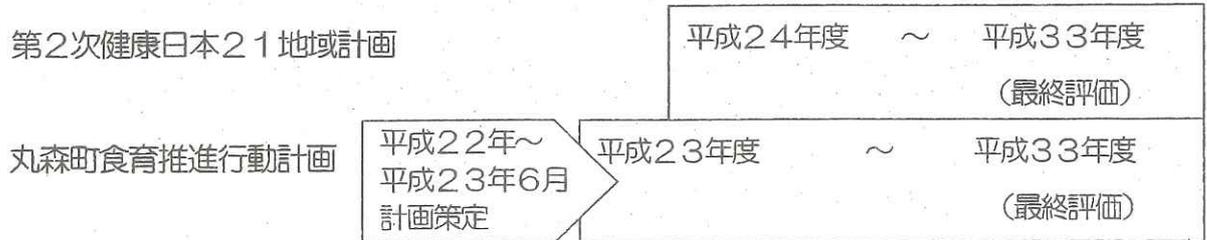
### (1) 計画の位置づけ

本計画は、食育基本法第18条「市町村食育推進計画」の規定に基づき、丸森町の現状に則した食育推進の方向性を示すための計画として位置づけるとともに、長期総合計画をはじめとする既存の関連計画との整合性を図るものとします。



(2) 計画の期間

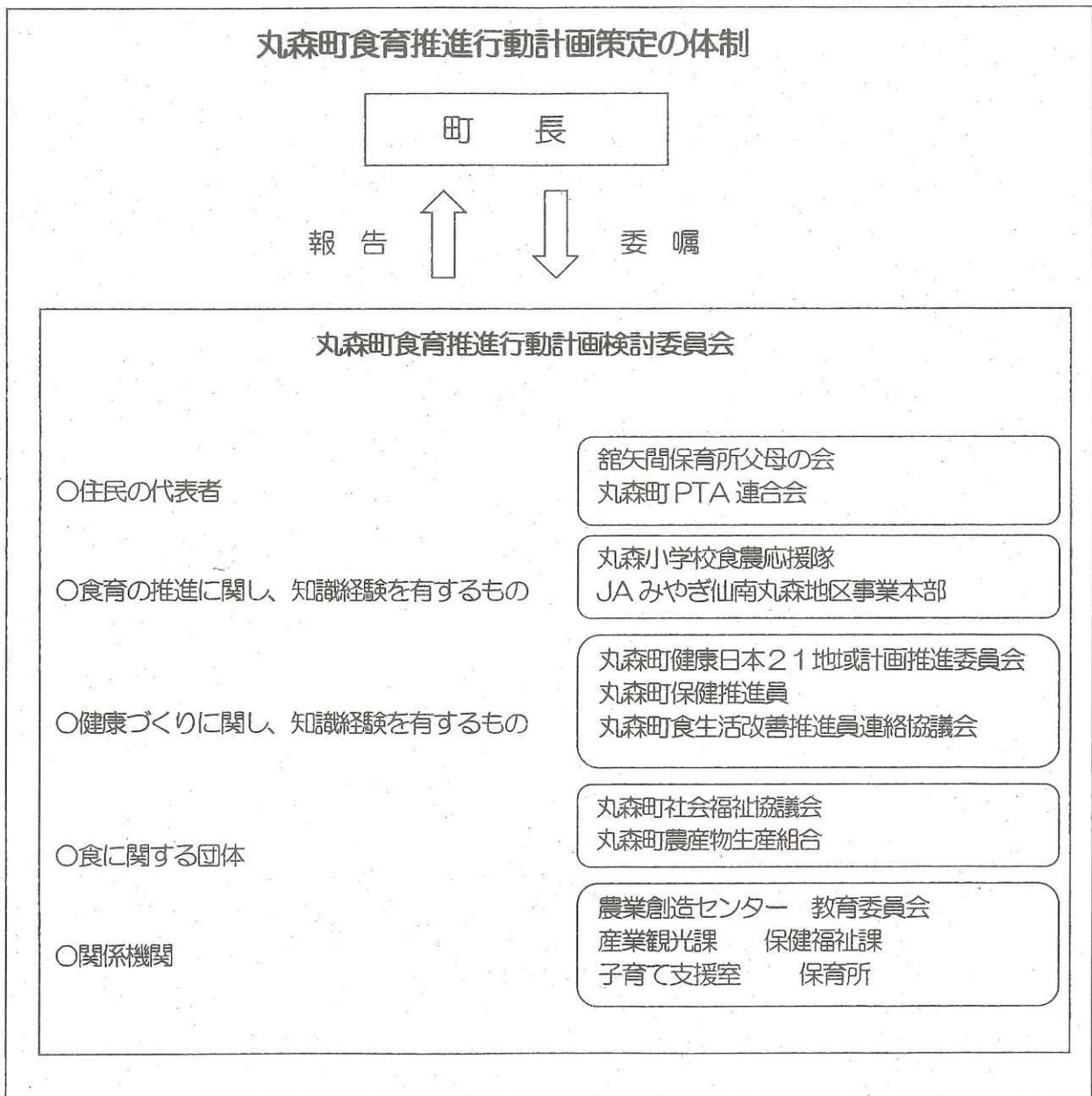
本計画は、「第2次丸森町健康日本21地域計画」との整合性を図り、平成23年度を初年度として、平成33年度までの計画とし、中間年度に評価・検討を行います。



### 3. 計画策定の体制

#### (1) 丸森町食育推進行動計画検討委員会の設置

丸森町の現状に則した柔軟性のある計画とするため、食の安全安心・地産地消・食文化の継承・地域活性化・健康づくりを意識して策定できるよう、住民の代表、食育の推進に関し知識経験を有する者、健康づくりに関し知識経験を有する者、食に関する団体の代表者、関係機関の職員による委員会を設置しました。

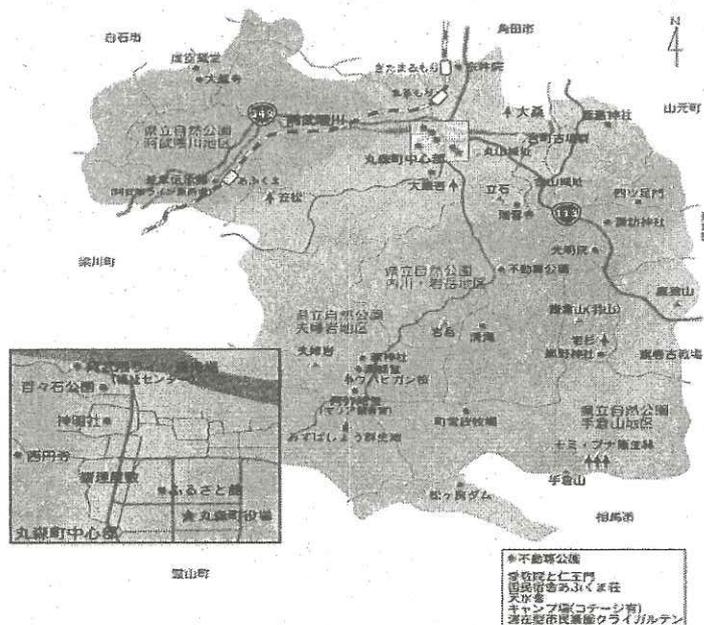


## 第2章 丸森町の食育推進行動計画策定の背景と基本的課題

### 1. 丸森町の概要

丸森町は、宮城県南端に位置し、南西は福島県と隣接し、北部は阿武隈川が貫流し、西北部は、阿武隈山脈の支脈で囲まれた盆地状の町で、町の面積の7割を山林が占めています。豊かな阿武隈川を抱く、美しい自然と歴史の町です。

町の花 : やまゆり  
町の木 : 杉  
町の鳥 : うぐいす  
丸森町の人口(平成23年3月末日)  
15,729人  
高齢化率 33.03%  
出生者数(平成22年)  
81人



### 2. 計画策定の背景と基本的課題

丸森町には、豊かな自然と風土に加え、隣県の風土や食文化を併せ持った独自の文化があります。その中で、地域の行事や家の味等を先人から受け継いできました。

受け継がれて来たものを引き継ぎながら、食に関する正しい知識を伝え、広めていく必要があります。

そこで、丸森町の食の現状を「食の安全安心、地産地消、食文化の継承、地域活性化、健康づくり」の視点から分析し、課題を検討しました。

## 1. 食の安全安心

健康志向の高まりから、食材を選ぶ視点として「安全」への関心は高まり、消費者は、国外産の食材よりも国内産や県内産を、さらに生産者の顔が見えるものや丸森産のものを選ぶ傾向にあります。

一方、形が不ぞろいのものよりは形が整ったものを選びられる傾向があったり、虫に食べられた野菜を嫌う消費者もいるなど、減農薬・有機栽培に取り組む生産者がいても、消費者が減農薬・有機栽培のことをまだまだ理解していない現状があります。

また、丸森町においては、安全で安心して農産物を購入できる制度として「丸森産農産物認証制度」がありますが、充分浸透しているとはいえません。

今後は、安全安心な農作物の栽培について消費者も正しく理解する対策や安全に栽培された農産物の流通システムを充実させる対策の検討が望まれます。

## 2. 地産地消

丸森町は、田畑を有している家庭が多く、新鮮な野菜等が手に入りやすい環境にあります。

また、多く採れた場合は近所に「おすそ分け」する風習もあり、特別に意識しなくとも地産地消が育まれていました。

しかし、近年、会社勤めで忙しく、米づくり、野菜づくりは「手間暇がかかる、自分では上手に作れない、作り方が分からない」等の理由で田畑はあっても作物は作らず購入する家庭も多くあります。

丸森の農産物を手軽に手に入れることのできる場所としては、直売所が町内各地区にありますが、観光客などの町外の利用者が多い一方で、土日や昼間の営業が多いことから、仕事帰りの利用が難しい側面があります。

地産地消とは、丸森町内で生産された農畜産物を丸森町内で消費する取り組みです。

丸森産の食材をいつでも、どこでも手軽に入手するためには、販路拡大や町内外にむけた安全安心な農畜産物の情報発信が必要です。

また、消費者が町内産の農畜産物を適正な価格で買うことによって、地域の農業・農家経営を支える機能もあり、生産者と消費者がお互いに支え合い、地産地消を進めることが大事です。

### 3. 食文化の継承

食文化とは、季節ごとのごっつおう（ご馳走）だけでなく、食材の保存方法や料理するまでの過程や食事のマナーをも含み、親から子へ、代々受け継がれていくものです。

以前は、大勢の家族の中で伝えられてきましたが、核家族の増加や、女性の社会進出による共働きの増加などのライフスタイルの変化により、家庭内での食文化の伝承が難しくなっています。

このようなことから、保育所や児童館・小中学校の給食などで、昔から伝わる行事食を取り入れ、子どもたちに食文化を伝える取り組みをしています。

これからも、食文化を家庭の中で親が子に伝えることができるような取り組みや丸森町内の食文化に関する情報を集約するとともに、情報発信するための取り組みを増していく必要があります。

### 4. 食に関わる活動をとおした地域活性化

丸森町内では、食に関わる様々な活動が行われています。

農家レストラン、直売所等の活動に関わる人が増えており、町内外からの来店者との交流の場として地域活性化の原動力となっています。

農家レストランや町内の食堂では、メニューに町内産の野菜や特産物を取り入れていきます。また、町内各地の直売所では、それまで自家用でしか作っていなかった野菜を売ることによって収入を得られることも生産者の生きがい、やりがいにもつながっています。

農業創造センターでは特産品の開発、商品化に取り組んでいるほか、丸森町の特産物を町外のアンテナショップや各種イベントで販売・PRしています。

丸森小学校では、食育活動の中で特産品であるヤーコンを使ったふりかけを作って試食するなど、特産品への取り組みが増えています。

小中学校、保育所、児童館では、自分で作り、収穫して食べる楽しみを体験することで、食べ物への理解を深め、感謝の心を養うことのできる農業体験や交流体験を、各種団体の協力を得ながら行っています。

しかし、それぞれの活動は活発に行われているものの、周囲の人たちには取り組みが十分に周知されていない面もあります。

さらに、食育活動を関係機関が連携・協力しながら、情報を把握し、広く発信することが必要不可欠となります。

## 5. 健康づくり

人が健康に過ごすために、日頃の食習慣が重要なことはいうまでもありません。

丸森町では、昭和 30 年代から婦人会や食生活改善推進員による生活習慣病予防のための食生活や料理の工夫の普及活動を進めてきました。

現在は、これまでの活動に加え、子どもや子を持つ親を対象として、各種団体の協力を得ながら保育所、児童館、小学校で食品の働きや食べるときの組み合わせについての学習活動を進めています。

活動の成果、健康現役丸森大作戦 21（げんまる 21）中間評価（平成 19 年実施）より

(1) 朝食を毎日食べる。

	平成 16 年	平成 19 年
小学校	91%	90%

(2) 主食・主菜・副菜があるバランスのとれた朝食を毎日食べる子どもの割合

	平成 16 年	平成 19 年
小学校	34%	47.8%

(3) 主食・主菜・副菜があるバランスのとれた朝食を食べる家族形態

		平成 16 年度	平成 19 年度
小学生	一人だけの食事	—	34%
	兄弟だけの食事	—	49%
	母と食事	—	53%

(4) 副菜（野菜）がない朝食を食べている子どもの割合

	平成 16 年	平成 19 年
小学校	—	57%

(5) 規則正しい食生活の大切さを理解する親の割合

	平成 16 年	平成 19 年
小学生を持つ親	52%	57%

(6) 健康的な生活が習慣化している子どもの割合

	平成16年	平成19年
小学生を持つ親	—	69%

このような現状から、健康的な食事をする人が増えるよう、関係機関等と協力しながら進めていく必要があります。

### 第3章 丸森町の食育でめざす姿と基本目標

#### 1. 丸森町食育推進行動計画の基本理念（めざす姿）

「んめえもの」食べれば笑顔がふえる  
みんな元気な「しあわせの丸森（まち）」

「食育」の原点は家庭であることを考慮し、「おらほ」という町全体を表し、家庭単位で「んめえもの」を伝えることを中心に基本理念を検討しました。

みんな幸せになれば町も元気になり、町が活性化することから、みんなが「んめえもの」の意味を知り、実践できることをめざし、丸森町食育の基本理念とします。

「んめえもの」とは . . . .

- 丸森で育った（とれた）地場産品
- 安全安心な旬の新鮮な野菜
- 地域や家庭で伝わる料理
- 体にとってよいもの

## 2. 基本目標

「んめえもの」を食べれば笑顔がふえる みんな元気な「しあわせの丸森（まち）」なることをめざし、具体的な行動をおこすための基本的な目標を、以下のように設定しました。

1. 家庭で、地域で、町でみんなに「んめえもの」を伝えよう。

2. 安全安心な食材を選ぶ「五感」を身につけよう。

3. 「食べる」ことを理解し、感謝する心を養おう。

4. 生産者と消費者が互いに理解し、支え合おう。

5. 多様な機関が連携し、食育をすすめよう。

## 第4章 基本目標に応じた食育推進活動の具体的な取り組み

### 1. 家庭で、地域で、町でみんなに「んめえもの」を伝えよう。

我が家の味や地域の伝統食を家庭で、地域で、町で伝えていきます。

- (1) 家庭では、それぞれの「我が家の味」を子に伝えるように努めます。
- (2) 地域では、地域の行事を伝えたり、おすそ分けを進めます。
- (3) 「んめえもの」を町内へ、そして町外へ発信します。

### 2. 安全安心な食材を選ぶ「五感」を身につけよう。

安全安心な食材を選ぶ力は、子どもの頃に身に付くと言われています。  
様々な食農体験をとおり、5感「視覚・聴覚・臭覚・味覚・触覚」を育みます。

- (1) 町、地域の関係団体で「安全安心」な食材の普及啓蒙をします。

### 3. 「食べる」ことを理解し、感謝する心を養おう。

食べるまでには、栽培から収穫、調理と様々な過程があります。  
「んめえもの」を作ってくれた人や自然の恵みに感謝する心を養います。

- (1) 家庭では、家族みんなで「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをします。
- (2) 地域と町では、食材の栽培・収穫までの一連の「食農体験」の機会を増やします。

#### 4. 生産者と消費者が互いに理解し、支え合おう。

生産者は、消費者に安全安心な食材を安定的に消費者に提供することで、消費者の健康と命を支えます。また、消費者は生産者が作った農畜産物を適正な価格で買うことによって、地域の農業・農家経営を支えます。

生産者と消費者がお互いに支え合います。

- (1) 生産者と消費者が交流をとおり、お互いの理解を深めます。
- (2) 丸森町内で採れた食材を、町内の施設や商店などで流通する仕組みをつくりまします。

#### 5. 多様な機関が連携し、食育をすすめよう。

食に関係する各組織・団体・学校・保育所・児童館・行政・地域が連携し、現状に合わせた食育を推進します。

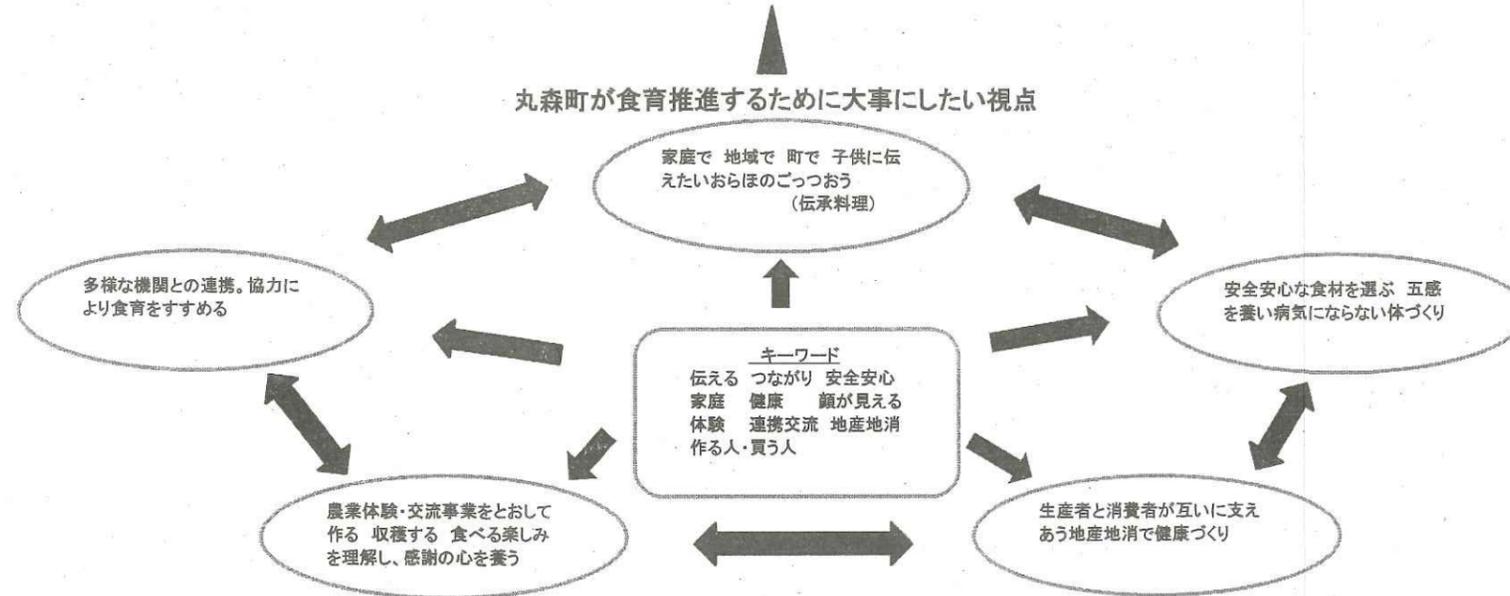
- (1) 食育に関係する機関のネットワークを構築します。

# 丸森町食育推進行動計画

基本理念  
(丸森町の食育を推進してめざす姿)

「んめえもの」食えば笑顔がふえる みんな元気な「しあわせの丸森(まち)」

1. 「んめえもの」とは …… 丸森で育った(とれた)地場産品・安全安心な旬の新鮮な野菜・地域や家庭で伝わる料理・体にとってよいもの
2. 「んめえもの」を食べると… 体も心も元気になる。



基本目標  
(食育推進の柱)

家庭で、地域で、町でみんなに「んめえもの」を伝えよう。

安全安心な食材を選ぶ「五感」を身につけよう。

「食べる」ことを理解し、感謝する心を養おう。

生産者と消費者が互いに理解し、支え合おう。

多様な機関が連携し、食育をすすめよう。

具体的な取り組み

1. 家庭では、それぞれの「わが家の味」を子に伝えるように努めます。
2. 地域では、地域の行事を伝えたり、おすそ分けを進めます。
3. 「んめえもの」を町内へそして町外へ発信します。

1. 町・地域の関係団体で「安全安心」な食材の普及啓蒙します。

1. 家庭では、家族みんなで「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをします。
2. 地域と町では、食材の栽培、収穫までの一連の「食農体験」の機会を増やします。

1. 生産者と消費者が交流をとおし、お互いに理解を深めます。
2. 丸森で採れた食材を、町内の施設や商店などで流通する仕組みを作ります。

1. 食に関係する機関のネットワークを構築します。